

とくしまの

学校における働き方改革の更なる推進に向けて ～ 令和4年度働き方改革推進チームからの意見 ～

この資料を参考にいただき、各学校・各教育委員会での働き方改革の取組に工夫を加えながら、更に推進してください。

1. 学校における働き方改革推進チームについて
2. 令和4年度 取組のポイント
3. 取組の柱《1》タイムマネジメントの徹底
4. 取組の柱《2》業務改善の更なる推進
5. 取組の柱《3》外部人材の積極的活用
6. 取組の柱《4》部活動の適正化
7. 共通的留意事項 保護者・地域への理解促進
8. 教職員の意識改革について
9. 働き方改革を進めるための「4つのポイント」



令和5年3月

1. 学校における働き方改革推進チームについて

全ての校種からの幅広い年齢層の教職員で構成された推進チームから意見を集め、「とくしまの学校における働き方改革プラン（第2期）」の取組を推進。

推進チームの組織（令和4年度）

教職員

- ・高等学校
 - ・特別支援学校
 - ・中学校
 - ・小学校
- 計15名

幅広い年齢層で構成
(若手、中堅、管理職)

教育委員会事務局

- ・教育次長
- ・教育政策課長
- ・教職員課長

その他関係各課から
代表者が参加



推進チーム会議のテーマ

| 会議 | 開催日 | テーマ |
|-----|------------|-----------------------------|
| 第1回 | 令和4年8月26日 | 自校における取組状況について |
| 第2回 | 令和4年11月16日 | 働き方改革を推進する具体的取組について(グループ協議) |
| 第3回 | 令和5年2月15日 | 令和4年度働き方改革推進チームからの意見について |



第2期プランを推進
していくよ！

2. 令和4年度 取組のポイント その②

「校種別プラス1」のポイント

【小学校】プラス1

放課後の業務遂行

時間の確保

- 会議や打合せの見直し
- 放課後の児童への指導の見直し



【中学校】プラス1

「部活動方針」を

学校HP等での公表と徹底

(練習時間、休養日の明記)

- 方針の遵守
- 部活動指導員の効果的な運用法の構築

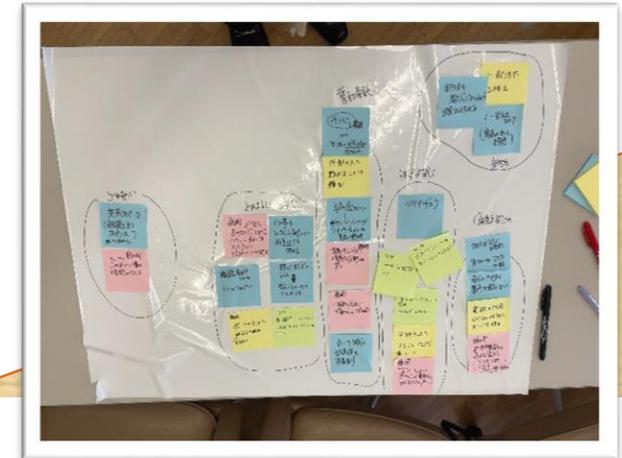


【県立学校】プラス1

業務の平準化と

協働体制の構築

- 時間外在校等時間の多い教職員の業務の整理
- 負担を感じている業務へのサポート体制の構築



3. 取組の柱《1》タイムマネジメントの徹底 その①

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

出退勤管理システムの活用

働き方の「可視化」と「共有化」がキーワード

○時間外在校等時間
～把握～

⇒ 毎日の正確な出退勤時刻の入力
(自身の業務を確認し、何に時間をかけているか(理由)を把握)



出退勤管理システムの入力画面

○時間外在校等時間
～削減～

⇒ 学校全体の目標を設定し、それを達成するための教職員個々の目標(削減時間)を決定する。



カエルボード

実効性ある具体的取組

○具体的取組
・退勤時刻の明確化
・ノー残業デーの設定
～推進～

☆「カエルボード」や「メッセージカード」
⇒ 可視化することで、退勤時刻を意識した働き方につながった。
☆ 管理職の声かけやミドルリーダーのサポート(教材研究、悩み相談等)
⇒ 定時退庁しやすい雰囲気や環境が
できている。

タイムマネジメント



3. 取組の柱《1》タイムマネジメントの徹底 その②

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

時間の確保（余白を生み出す工夫）

実効性ある具体的取組

○日課表の見直し



○授業の開始時刻を早める。休み時間を工夫する。
⇒放課後の**授業準備、事務作業や休憩時間を確保**するために検討する。

○学校閉庁日、 変形労働時間制の活用

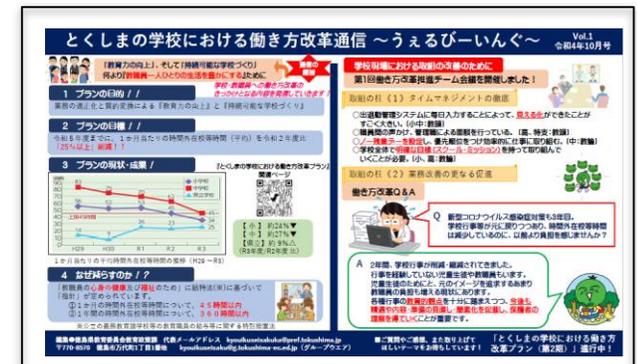
⇒学校閉庁日に休日を取得。年休を含めた休日のまとめ取りが可能になる。

学校における働き方改革通信 ～うえるびーいんぐ～



令和4年10月より、第2期プランの成果と課題を踏まえ、取組を加速させるため、「とくしまの学校における働き方改革通信 ～うえるびーいんぐ～」を発行!!

学校現場の教職員からのご意見や好事例をもとに、
「教育力の向上」、「持続可能な学校づくり」何より、
「教職員一人ひとりの生活を豊かにする」ために学校や教職員の
望ましい働き方への改善のきっかけとなるよう発行しています。



4. 取組の柱《2》業務改善の更なる推進 その①

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

業務改善の第1歩

積極的な「デジタル（DX）化」の一層の推進

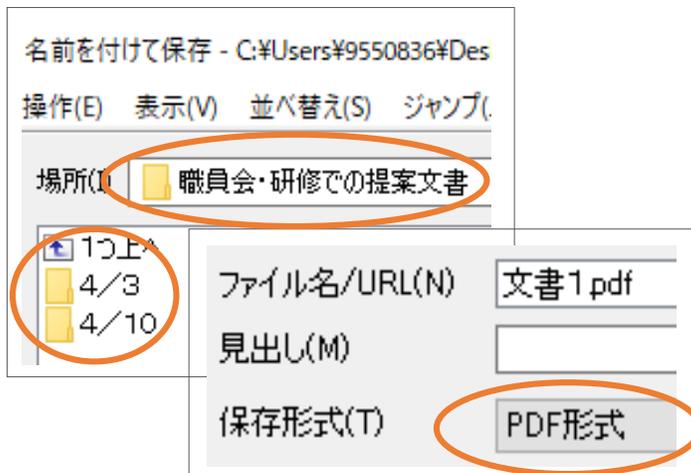
○データ化した教材を
（みんな）共有

☆学校や学年の共有フォルダに共通の教材を保存
⇒授業準備に充てる時間が短くなった。

実効性ある具体的取組

○ICT機器、
1人1台端末の活用

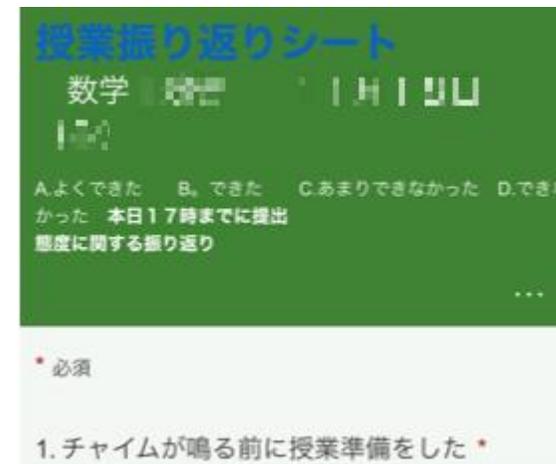
☆教材をデータ化して保存
⇒クラウドシステム（TeamsやMetaMoji Classroom）
の利用
☆保護者アンケートや連絡にもICTの積極的活用
⇒感染症対策になるとともに、授業・業務改善にもつながる。
⇒会議、校外研修等において移動時間が削減され、
別の業務に充てる時間が増えた。



共有ファイルにPDF形式で保存
（保存方法のルール化）



TeamsやMetaMoji Classroom
を活用し教材共有



Formsを活用し
アンケートを実施



4. 取組の柱《2》業務改善の更なる推進 その②

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

業務の精選

○学校行事の見直し・精選

- コロナ禍で中止したり、内容を見直した学校行事は、**教育的意義を考え**、精選していく。
 - ⇒行事の目的（教職員、児童生徒、**保護者と共有**）
 - ⇒行事の在り方（内容の精選、時期の見直し）

○校務の平準化

- 勤務時間外の業務の見直し
 - ⇒時間外在校等時間が多い教職員に対する**業務の進め方を見直すこと**で負担を軽減。
 - ⇒**複数担当制**を取り入れて、一人当たりの業務量を減らす。

Check!

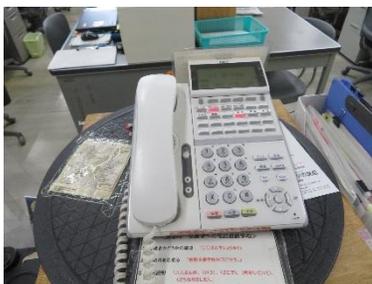
業務の偏りは
ありませんか？

○効率よく進めるための 会議のルール化

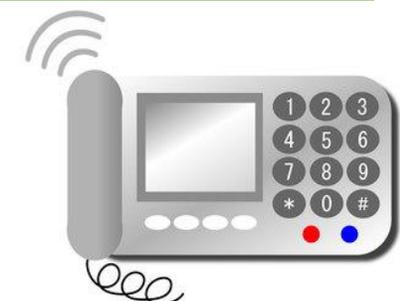
- ☆グループウェアの掲示板機能
- ☆共有フォルダに事前に資料配付
 - ⇒会議（終了）時間を決めておく
 - ⇒読み上げるだけのものは削減。要点を絞り説明する。

Check! 各自が責任を
もって目を通しておく。

電話応答メッセージ機能の利用



- 放課後や休日等に設定
 - ⇒保護者に理解をいただく
 - ⇒**緊急時の対応を周知**しておく。



5. 取組の柱《3》外部人材の積極的活用 その①

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

教職員の業務をサポート

外部人材活用による負担軽減

- **教員業務支援員**
(スクール・サポート・スタッフ)
- **学習指導員**
(学びサポーター)

☆教職員と外部人材の**役割を明確化**
⇒それぞれの専門性を生かすことで、教職員の負担軽減につながった。

- **ICT支援員**
GIGAスクールサポーター

☆ICTを活用した授業改善、
機器の設置準備を担当
⇒質の高い授業や個に応じた学習
指導の実現



- ☆コミュニティ・スクールの活用

☆学校運営協議会で、学校の教育目標を共有した上で、
教育活動に保護者や地域住民が参加・協力する。



教員業務支援員
(スクール・サポート・スタッフ)



学習指導員「学びサポーター」



図書館サポーター

外部人材
活用事例



5. 取組の柱《3》外部人材の積極的活用 その②

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

教職員の業務をサポート

外部人材活用による負担軽減

○スクールカウンセラー、
スクールソーシャルワーカー、
スクールロイヤーの活用

☆教職員だけでは対応が難しい問題を相談
⇒いじめ問題の未然防止、生徒指導における
諸問題の解決が進むことで負担が軽減した。



教職員のコミュニケーションを大切に！



風通しよい職場

⇒高い倫理観と使命感、コンプライアンス意識の醸成
☆言葉に出すコミュニケーションで「働きやすい職場づくり」
「ありがとう!」、「お世話になりました」、「何かできることはありませんか?」

徳島型メンター制度の活用

☆効率的な時間の使い方をしている先輩教職員からアイデア
を周知
職場内での悩みや問題解決をサポート

グループウェア回覧板機能

☆隙間時間を活用
☆意見を出しやすいICTの活用

| 氏名 | 日時 | 内容 |
|-------|------------------|-----------------------|
| 田中 太郎 | 2024/10/10 10:24 | 2024/10/10 10:27 確認済み |
| 山田 花子 | 2024/10/10 10:25 | |
| 佐藤 一郎 | 2024/10/10 10:26 | |
| 鈴木 美咲 | | |
| 高橋 健太 | 2024/10/10 10:27 | |
| 渡辺 真由 | 2024/10/10 10:28 | |
| 小林 大輔 | 2024/10/10 10:29 | |
| 中村 由香 | 2024/10/10 10:30 | |
| 清水 拓也 | 2024/10/10 10:31 | |

6. 取組の柱《4》部活動の適正化 その①

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

学校の部活動に係る活動方針を遵守

保護者・地域の理解・協力を得るために

○部活動の在り方に関する方針の遵守

| 令和3年度 ○○中学校 部活動 活動方針 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校教育目標 『人権を尊重し、社会を生き抜く力を身に付けた生徒の育成』 |
| 部活動の活動方針 (1) 生徒が豊かな学校生活を送りながら人格的に成長していくという部活動の基本的意義を踏まえ、生徒の主体性や個性を尊重した運営に努める。 (2) 生徒の多様なニーズに応え、一人ひとりが自己実現できるような指導に努める。 (3) バランスの取れた生活や、子どもの健全育成と教育環境の充実の観点から練習日数や1日当たりの練習時間、休養日の適切な設定を行う。 |
| 主に「運営」に関すること 【設置している部活動】 運動部：軟式野球、ソフトテニス(女)、バスケットボール(男女)、サッカー、卓球(男女)、バドミントン(男女)、バレーボール(女)、陸上競技(男女)、剣道(男女) 文化部：吹奏楽部、美術(版画書写)、民謡 【指導体制】 部活動は、学校全体として教育目標や運営方針を踏まえ、推進していくことが基本となる。顧問教職員だけに運営や指導を任せるのではなく、学校組織全体で部活動の目標、指導のあり方を決定していく。また、日々の運営や指導において、顧問教職員間で、活動の成果について意見交換を行い、情報共有を図ることはもちろんのこと、必要な場合には学校長が適切な指示を行う。 【顧問会議】 顧問教職員による顧問会議を定期的に開催し、連携を強化する。 |

中学校における「部活動方針」の一例

☆適切な活動時間(『運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン』:スポーツ庁)の遵守

- ⇒生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築
- ⇒適正な休養日、活動時間の徹底・管理
- ⇒教員の長時間勤務を抑制

☆最終下校時刻を設定

- ⇒短時間の練習で充実した内容、集中力も高まる。

☆平日1日以上、土日1日以上を「ノー部活デー」に設定

※「活動方針・活動計画」のHPへの掲載！

○部活動指導員



☆部活動指導員に指導を依頼

- ⇒専門的な知識と指導力のある部活動指導員がいることで、担当教員の負担軽減につながった。



外部人材
活用事例



6. 取組の柱《4》部活動の適正化 その②

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

適正化に向けて

より適切な実施方法の検討が必要

○部活動の精選

- 生徒数、教職員数の減により、必要に応じて部活動の統合や削減を進める。
- 複数顧問制、ニーズに合わせた新たな部の設立等について検討する。

☆大会・発表会等の精選、日程等の見直し

- 生徒、教職員の負担軽減のために、実施方法の見直し・精選を図る。

令和5年度からの段階的な移行に向けて

☆地域スポーツクラブ等の活用



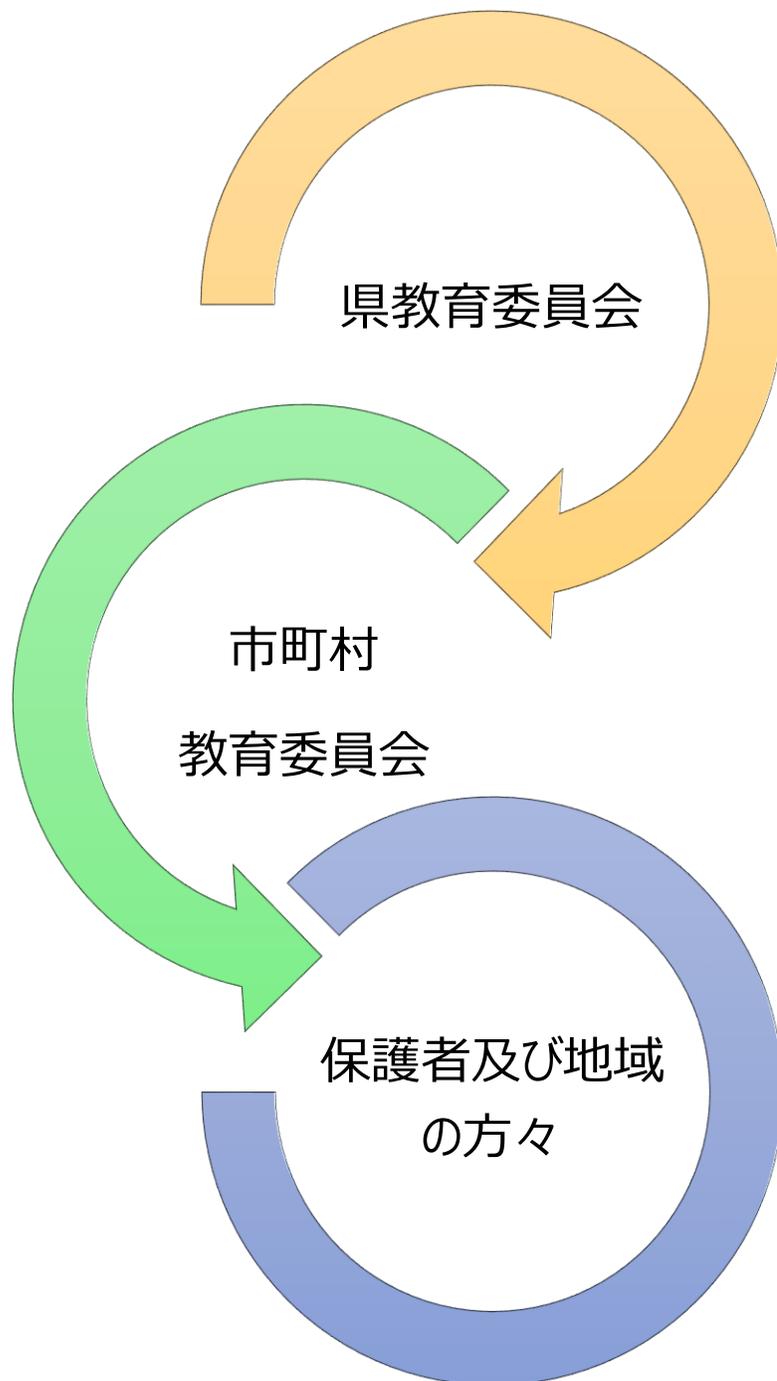
- スポーツ庁及び文化庁が『学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン(令和4年12月)』を策定
 - ⇒ **改革推進期間** (令和5年度から令和7年度までの3年間)
- 休日は、地域クラブ活動に移行
 - ⇒ **地域の方が生徒を指導できる体制づくりについて検討**

持続可能な活動を

7. 共通的留意事項 保護者・地域への理解促進

教育委員会、学校と保護者・地域との連携

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組



同一地教委内の全保護者に周知

- 教育委員会から、「学校閉庁日」や「電話対応時間帯」について、一斉に保護者に連絡
- 各種説明については、オンデマンド型で配信
⇒ホームページやYouTubeなどを利用
⇒保護者や教職員の負担の軽減を図る。

様々な広報による理解促進

- ☆保護者や地域へ、県教育委員会、市町村教育委員会や各学校から働き方改革に対する様々な広報を！
(ふれあいひろば、働き方改革通信や学校だよりなど)
⇒働き方改革に対する保護者の理解や協力につながった。
- ☆教育委員会や各学校において、働き方改革の取組を公表

評価アンケートの実施

- ☆保護者・教職員を対象とした、学校における働き方改革や部活動についての項目を設けた評価アンケートを実施
⇒取組の成果と課題を把握する。
⇒学校運営協議会においても、**議題**に挙げる。

8. 教職員の意識改革について

○推進チームからの意見
☆実践して効果のあった取組

教育の質の向上と働きがい改革

研修の実施

○働き方改革についての校内研修の実施

⇒個々の教職員が、自身のこれまでの働き方を振り返ることで、改善に向けた意識付けを図るよい機会となった。

学校の業務削減 計画の策定

○各学校における、業務削減方針・計画の策定、また業務改善のPDCAサイクルの実践等の取組

⇒働き方改革がもたらすプラス面を他の先生方に伝え、学校全体で共有し、進めていくことが大切である。

自己の働きがい、 ウェルビーイングを 高める

☆教職員自らが、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高めていく。

先生方一人一人が「笑顔」で、「元気」であることで、
子供たちは安心して学校生活を送れます！

9. 働き方改革を進めるための「4つのポイント」

① 定時で帰りやすい仕組み（雰囲気）づくりを！

※「ノー残業デー」「マイ定時退庁日」「ノー部活デー」の設定

② 学校行事のスリム化（準備削減、デジタル化）を！

※コロナ対策で効果があった方法を更にブラッシュアップ

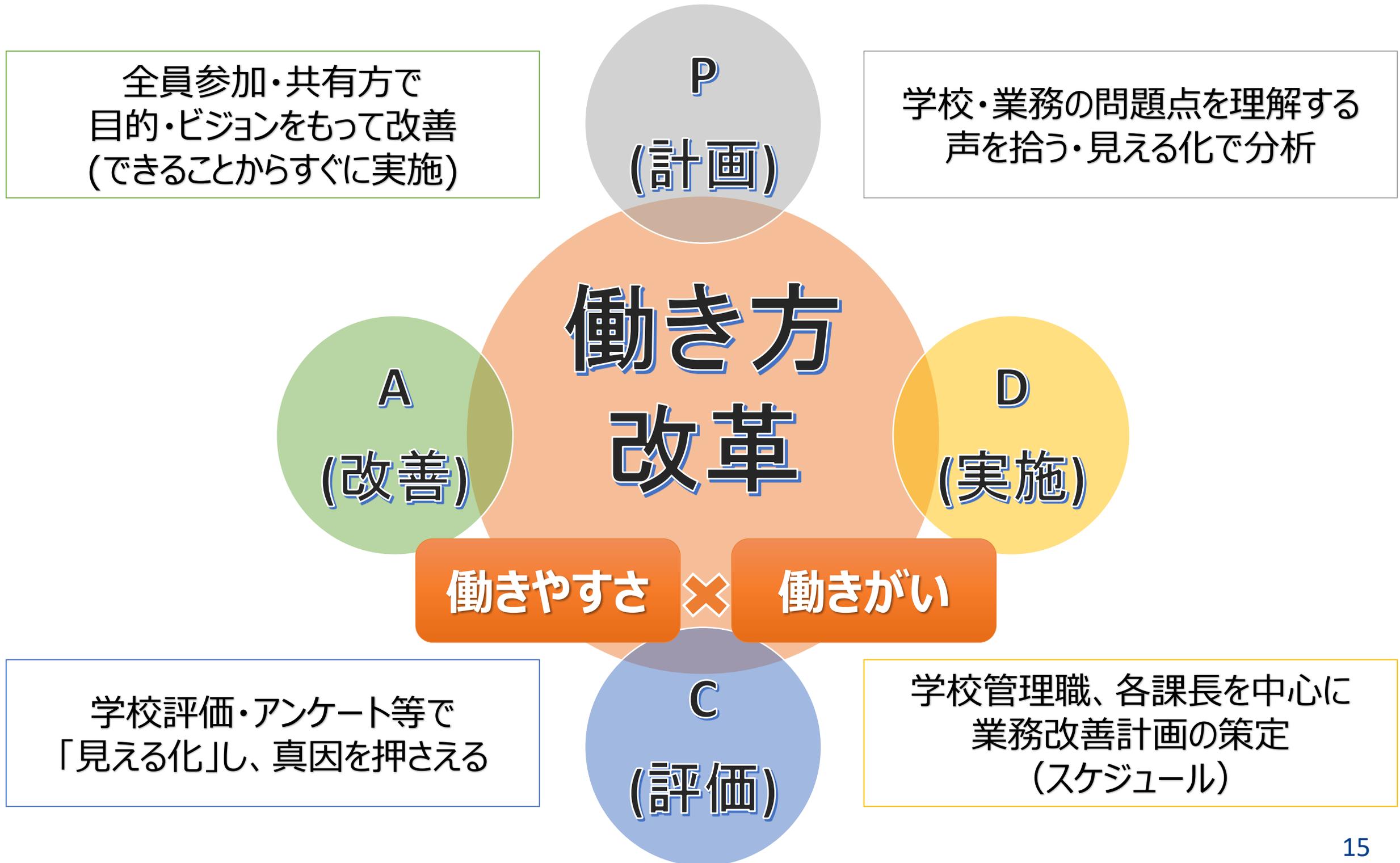
③ みんなで意見を出し合い、「課題の洗い出し」を！

※「働き方改革に関する研修」の実施、回覧板による意見の収集

④ 「部活動方針・計画」の遵守徹底を！

※定期的な確認、課題の共有、HPによる保護者への公開

業務改善・削減の「PDCAサイクル」を構築！



教職員一人ひとりのワークライフバランス
の実現とウェルビーイングの向上を
目指そう！



令和4年度学校における働き方改革推進チーム

| | | |
|-------|---------------|------|
| 篠原 義正 | 江原南小学校 | 教頭 |
| 平尾 恭子 | 三庄小学校 | 主幹教諭 |
| 柳澤梨理子 | 大津西小学校 | 教諭 |
| 八島 友美 | 相生小学校 | 教諭 |
| 松永 貴史 | 鴨島第一中学校 | 教頭 |
| 梶原 秀文 | 八万中学校 | 教頭 |
| 日下 名緒 | 那賀川中学校 | 教諭 |
| 松下 拓司 | 松茂中学校 | 教諭 |
| 宮本 大輔 | 高浦中学校 | 教諭 |
| 安藝 恭子 | 城東高等学校 | 教頭 |
| 四宮 博樹 | 富岡西高等学校 | 教諭 |
| 高橋 六樹 | 徳島科学技術高等学校 | 教諭 |
| 豊田ゆかり | つるぎ高等学校 | 教諭 |
| 原田真由美 | ひのみね支援学校 | 教頭 |
| 八木 陽子 | 板野支援学校 | 教諭 |
| 生田 雅和 | 県教育委員会事務局教育次長 | |
| 小原 広行 | 県教育委員会教育政策課課長 | |
| 眞摺 秀也 | 県教育委員会教職員課課長 | |